

(rev. in: Centr. Bakt. Parasitenk, Abt. II, **40**: 177, 1914). Lodder and Kreger-van Rij, The yeast p. 319, 1952. Sherwin, in Jour. Elisha. Mitch. Sci. Soc. **64**: 272, 1948. Stelling-Dekker, Die sporogenen Hefen, sect. II, **28**: 1, 1931. Sydow, H., in Ann. Mycol. **10**: 347, 1912.

〇フジイバラ西日本に産す (靱山泰一) Yasuichi MOMIYAMA: *Rosa fujisanensis* Makino found in western Japan

フジイバラ *Rosa fujisanensis* Makino は、富士とその周辺の山地にのみ産するものと思っていたが、そうではなかつた。おとしの夏、わたくしは、原寛、小川由一両氏とともに、大和の大峯にのぼり、山上が嶽の頂上(約 1700m)で、これを採つた。ことしの夏は、阿波天狗塚(約 1800m)の中腹以上(1450m)で、またこれを採集した。山中二男氏と御一緒であつた。八木繁一氏の御教示によると、伊予大野が原源氏が駄場(約 1400m)にも、フジイバラが多く生じているという。わたくしは、この夏の旅行で大野が原をおとずれる暇をもたなかつたが、そこで採られた山中二男氏の標本を、高知で拝見することができた。また、八木氏のお話では、伊予西赤石山の尾根にも、フジイバラがあるという。京大には、大和大峯、阿波剣山、伊予小田深山(をだみやま)の標本があり、小田深山とあるのは、実は、大野が原のことであるらしい。というのは、小田深山は、地域の名で、大野が原もその中にあり、フジイバラがあるのは、小田深山の中でも、大野が原に限られているらしいからである。また、大和大峯のは、嘗つて、小川由一氏の標本を拝見したり頂戴したりしたが、それは、わたくしが見た、西日本のフジイバラの、最初の標本であつた。この夏、松山の本屋で需めた愛媛風土記という小冊子には、八木氏の筆になる大野が原植物の記事があり、フジイバラも、その中にくわしく紹介されているのを知つたが、これを見ると、四国では、以前から、フジイバラの存在が知られていたのである。かくて、フジイバラは、西日本山地の高処に、点々と分布していることが明らかになつた。その生育地は、ブナ帯の中の疎開地であつて、灌木林の中や、山頂の岩石地や小笹原(ミヤコザサ風の)などに見出される。天狗塚では、麓の方にヤブイバラ *Rosa Onoei* Makino が、1100m 辺から上にモリイバラ *Rosa jasminoides* Koidzumi があり、さらに、1450m 辺から上にフジイバラが出て来るのであつた。そして、それは、頂上近くの 1700m 前後の地点にまで見られた。フジイバラは、元来、外帯山地要素のひとつに数うべき古い種類で、それが富士にとりわけ多いのは、新生の火山に、周囲の山地から、二次的に植民した結果であらうかと思う。フジイバラは、太い主幹をもち、密に枝を分つていて、葉は 3-4 対の小葉から成り、頂小葉は、それほど大きくない。鋸齒は、近似種の中で、最も鋭くまた細かい。短い円錐花序は数花より成り、苞はややひろく、花季は 6-7 月の交、果実は、やや大きめである。葉は、乾くと、黄赤褐色を帯びる傾がある。(資源科学研究所)